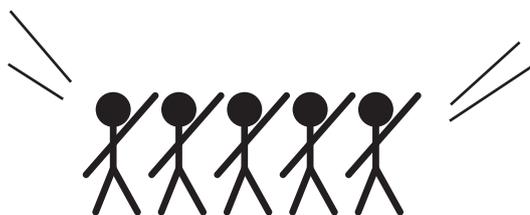


地域の課題解決を目指すプロジェクトを選んで寄附で応援する。

# 割り勘で 夢をかなえよう!

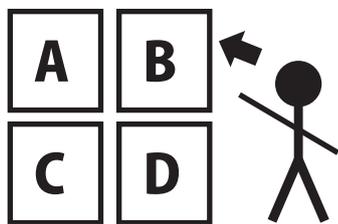


## 事業指定寄附カタログ 01

(第1期事業指定寄附プログラム)

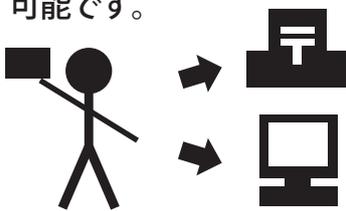
1

このカタログの中から、  
応援したい取り組みを  
選んでください。



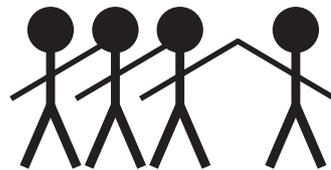
2

同封の郵便振替用紙で  
ゆうちょ銀行にて寄附  
をお願いします。  
インターネットからも  
可能です。



3

目標額に達するまで賛同  
者が集まったら取り組み  
を実行します。実施後は  
成果を報告します。



一般財団法人

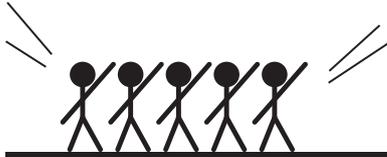
みんなでつくる財団おかやま

OKAYAMA Share foundation

# カンボジア小学校体育科教育指導書 作成・配布プロジェクト

# 1.

目標額 350,000 円



特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド

<http://www.hofg.org/jp/index.shtml>

ハート・オブ・ゴールドは、1998年の設立以来、アンコールワット国際ハーフマラソンの開催を支援し、参加費を義手義足作製等、対人地雷被災者自立支援に当てるなど、地雷により障害を持った人たちに対し、スポーツへの参加促進支援に努めてきました。

現在はアンコールワット国際ハーフマラソンに加え、カンボジア小学校体育科指導書作成支援事業を経て普及事業を展開するなど、事業を発展させています。



## ■プロジェクトの背景

ポル・ポト政権時代、クメール・ルージュにより多くの知識人が虐殺されたカンボジアでは、子どもたちが楽しみにしていた学校での体育の時間、そこで教えていた先生、使用されていた指導書などが、すべてが失われました。体育の授業は、知識や技術を身に付けるだけでなく、他人への態度や人との協力について学べる大切な時間です。

現在、カンボジアで体育を教えらるる教員はわずか500人。

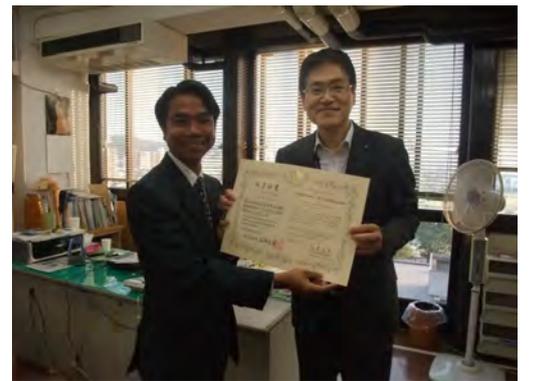
虐殺以前と比べ1/1000ほどです。

子ども達の健やかな体と豊かな心を育むために、まずは指導者の育成が重要なカギとなっています。



カンボジアと岡山県は、小学校体育科振興事業を通じ、体育指導技術に関する信頼と絆で結ばれています。

プロジェクトリーダーが、岡山県の技術移転事業で、様々な体育科教育の技術を学びに来たり、カンボジア体育科指導要領の中には、岡山県の名前が記されたりしています。



## ■みなさまからの支援で実現したいこと

ハート・オブ・ゴールドのスポーツ支援・カンボジア支援の実績を活かし、子ども達がよりよい小学校体育の授業を受けることができるよう、教員のよりどころとなる指導書の作成、及び現地の小学校全約7,000校への配布と指導の実践を行って参ります。

(今回のプロジェクトでは301校分を実施)

この活動を通じて、子ども達がよりよい小学校体育の授業を受けられるようになり、健康状態の向上、協調性の育成、運動能力の向上につながることを目指します。

どうぞみなさまからのあたたかいご支援を、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人

ハート・オブ・ゴールド

■活動内容：アンコールワット国際ハーフマラソン運営協力、小学校体育科普及など

■代表者：有森 裕子

■設立年月日：1998年

# 2. フードバンク岡山 設立事業

目標額 230,000 円

特定非営利活動法人 杜の家

<http://www.facebook.com/Foodbankokayama> (facebook)



フードバンクとは、企業から余剰食品の寄付を受け、生活困窮者に対し無償で提供する活動です。

2012年11月15日に発足したフードバンク岡山では、この活動を通じて広く「食」の支援を実施し、生活困窮者の生活の立て直しを図り、また同時に企業の食品廃棄物を削減することにより、持続可能な循環型社会を実現することを目指しています。

今、その設立準備を行っています。



## ■プロジェクトの背景

現在の大量生産・大量消費社会では、品質や安全に問題のない食品であっても、様々な理由がつけられ処分されています。

その量は年間500万トンから900万トンと言われ、多くは企業が廃棄物として金銭を払い、処分しています。廃棄コストは1トンあたり1～8万円と決して安くありません。さらに、愛情を持って作った食品を廃棄するのではなく、きちんと食べてほしいと考えている企業がたくさんあります。

一方で、岡山には日々の食事のままならない人たちがいます。

ホームレス、年金で暮らす高齢者、DV被害者、虐待を受ける児童、障がいを持った方々。社会的弱者と呼ばれる方々を支える現場では、絶えず「この人たちにどのように食事を提供するか」ということが大きな問題となっています。

フードバンク岡山は、上記のような方々に対し支援活動を行ってきた5団体のスタッフが集まり、結成されました。「岡山に暮らす全ての人に食事を届けたい」という、強い共通の思いを持っています。



## ■みなさまからの支援で実現したいこと

フードバンクへの取組みは、始まったばかりの小さな活動ですが、確実に社会を変える仕組みにつながると感じています。

みなさまからお預かりする寄付をもとに、地元スーパーや食品製造会社に向けて、この事業へ関わってもらおうための説明会の開催や積極的な広報を行って参ります。

自分たちの作った食品を無駄にしたい・食べてもらいたいという思いがありながら、包装ミス分や余剰分を廃棄している企業と、食品を必要としている社会的弱者の方を支援する団体を結びつける仕組みを作っていきます。

私たちの新しい挑戦へ、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 杜の家

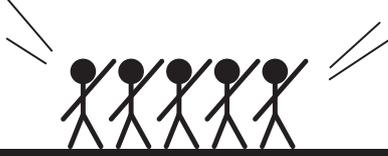
■活動内容：障害者自立支援法に基づく就労支援、農作物の生産販売など

■代表者：大森一弘

■設立年月日：2010年11月26日

# 「ふぁみりえんのたくじ」 で「母子避難者支援」 3.

目標額 580,000 円



NPO法人 0-99 おかやまおしえてネット

<http://www.0-99net.org/>

東日本大震災により住居や職を失い、やむを得ず家族と離れ、岡山へ母子で避難されて来られた方は今、約 500 人にもなっています。そうした母子は震災から 1 年 8 か月が過ぎた今も、先行きがわからないまま、不安を抱えた生活をおくられています。

## ■プロジェクトの背景

0-99 おかやまおしえてネットは、子育てを通して出会った母親、教師、医師などが、自分たちの経験を次の世代へ伝え、集まれる居場所をつくりたいという想いで設立されました。

これから生きる子どもたちの時代を危惧している人は多いのではと感じています。

一般的に、家庭で子どもを育てる親は常勤者よりストレス度が高いと言われています。子育て支援団体としての長年の活動経験からも、それは顕著に感じるどころです。

また、特に、東日本大震災の影響で避難している母親にとって、慣れない環境下での子育て、また子どもを傍らにおいての就職活動などはとても負担の大きなものです。

例えわずかな時間であっても、不安から解放され、リフレッシュして新たな活力を得るため、時には母子それぞれの時間を過ごすことが必要だと私たちは考えています。

## ■みなさまからの支援で実現したいこと

母子避難者どうしの集会や交流会場にて、無料託児サービスを提供します。また個別託児を希望する方には、私たちが独自に行っている託児サービス「ふぁみりえんのたくじ」を安価で提供します。

「ふぁみりえんのたくじ」は、大きな窓、清潔な環境、厳選した「玩具」や「絵本」に囲まれた空間で、一人ひとりを大切にする託児サービスです。

また、今回のプロジェクトを、地域の子育て支援団体と連携して行い、必要なノウハウや情報を共有していきます。

これらの活動が、岡山の子育て環境を整えていくと思います。

母子生活の大変さを理解できる私たち支援団体が、母親と子ども、どちらも見守り支えていきたいと考えています。

応援、よろしく願いいたします。



NPO法人

0-99 おかやまおしえてネット

■活動内容：子ども向け・親向け・親子向け講座の開催、託児、講演など

■代表者：洲脇 美智子

■設立年月日：2003 年 8 月 9 日

# 4. 「大人が本気になる時がきた」

## 中山間地域・倭文西の挑戦

目標額 350,000 円

倭文西まちづくり協議会

<http://yamaai.exblog.jp/>



岡山県久米郡美咲町、倭文西（しとりにし）。

山に囲まれたこの場所で、子どもたちが地域の未来について考え、計画書を作成しました。「ぼくは、人がいなくなっていくのを止めて、人がたくさん住めるようにしたい。」「ぼくは、山や川を大切にして、楽しく遊べるまちにしたい。」「わたしは、地域にしかない食べ物や伝統のものを、たくさんの人に知ってもらいたい。」この計画書に基づき、大人たちが“本気のまちづくり”を実行していきます。

### ■プロジェクトの背景

「倭文西まちづくり協議会」が活動する岡山県久米郡美咲町は、土地の大部分が森林で占められており、山間や谷間を利用した棚田や、急傾斜を利用して畑が耕作されている典型的な中山間地域です。

少子高齢化と過疎化が進み、65歳以上の人口は地域の40%となっています。地域にある集落の中には、高齢化率が100%のところもあり、このまま何もしなければ集落がなくなってしまう可能性もあります。こうした状況の中、倭文西まちづくり協議会では、倭文西に暮らす子どもたちの「地域への思い」を実際に活動へ取り入れることで、地域をより暮らしやすくしていけるのではと考えました。

子どもたちが考えた計画を実行することで、子どもも大人も、誰もが“将来にわたり住み続けたい倭文西を目指そう”としています。

### ■みなさまからの支援で実現したいこと

今回のプロジェクトでは、子どもたちの計画書の中から「川や山を守って安全に楽しく遊べる地域づくり」「体験ツアーの実施による地域の魅力の再発見」の2つに取り組みます。

1つめ。「楽しく遊べる地域づくり」では、地域の川の環境を整えるため、子どもたちと川遊びを行いながら水質調査を行い、川の歴史や文化を

学びます。あわせて、虫が飛ぶ川の水辺周辺の草刈を行うなどの環境整備も協力して行います。

2つめ。「地域の魅力の再発見」では、地域で暮らす様々な人が講師となり、文化や風習を体験できるワークショップを開催します。ワークショップは、住民それぞれの得意分野（そば・こんにやく・縄・炭作りなど）をテーマに開催することで、地域の文化を伝承し、活性化に活かせる特技を再発見します。

このワークショップで出た意見をもとに、地域の恒例イベント「収穫祭」の見直しを行います。地域住民と子ども達が一体となり、人と人とのつながりを作りながら、また時に地域外からも担い手を募り、誰もが参画できる収穫祭を一から創っていきます。

子どもも大人も本気です。このプロジェクトを成功させることで、誰もが今より地域を好きになり、さらにすばらしい“元気な倭文西”を目指します。この地域の未来のために、ぜひこの「倭文西の挑戦」を応援してください！

#### 倭文西まちづくり協議会

■活動内容：地域住民全体で行う収穫祭の開催、地域マップや計画書の作成 など

■代表者：岡田寿

■設立年月日：2009年7月13日

# 若者が多様な働き方に出会えるイベント 5.

## 「だっぴ 50×50」 開催プロジェクト

目標額 120,000 円



かいわれの会

<http://blog.canpan.info/kaiware2/>

これからの働き方や生き方を考える若者 50 人が、  
様々な働き方・生き方をする素敵な大人 50 人と  
出会い、尋ね、語り合う  
そんなイベントが開催されています。  
その名も「だっぴ 50×50」。  
岡山中、大人と若者の あたらしい関係が育とうとしています。

### ■プロジェクトの背景

「かいわれの会」は、かんきょうに・いっしょうけんめいな・わかつての・れんけい、の頭文字から名づけられています。その名のおり、県内の若手社会人を中心にした環境に関する勉強会などを主な活動とします。活動を通じて、地球規模での社会問題を背景として、「持続可能な生き方」が求められる時代になっていることを感じ、この「だっぴ 50×50」というイベントの開催をはじめました。

社会は多様化する一方で、時代に対応した多様な働き方や人生観に、若者が会える機会はほとんどありません。また、あったとしても「大人側の視点による」情報提供がほとんどで、若者の心に響いていないのが現実です。

この状況から脱却するため、若者自らがつくった「フラットな場」を「あたらしい橋渡し役」として育てることを、「だっぴ 50×50」というイベントは目指しています。

### ■みなさまからの支援で実現したいこと

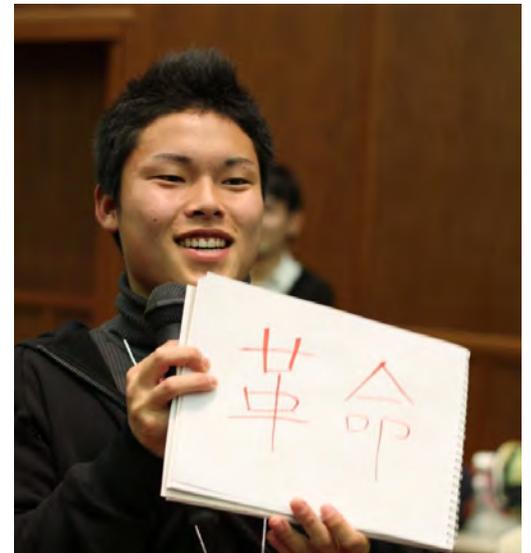
2013 年 1 月 6 日（日）に予定している、トークイベント「だっぴ 50×50」の開催を支援してください。

当日は、副市長から助産師まで様々な職業の「豊かな未来をつくりたいと軸をもって働いている」大人 50 人と、10 代～ 30 代までの「これからの岡山を担う若者」50 人が交じり合って話をします。

現在、若者による実行委員が、当日の進行準備やゲストとなる大人への依頼、ウェブサイトなどによる情報発信に取り組んでいます。

今回いただく寄付は「だっぴ 50×50」の運営費とさせていただきます。今回は特に「これまでだっぴに参加したことがない若者」にこの場があることを伝えるための広報に活用できればと考えています。

岡山の未来を担う若者たちのチャレンジを応援してください！



かいわれの会

■活動内容：勉強会、交流会、自主セミナーの開催 など

■代表者：柏原 拓史

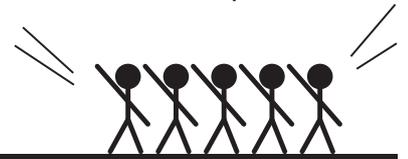
■設立年月日：2007 年 3 月 24 日

# 6. 「命の授業—子どもたちに命の大切さを語り継ぐ—」 書籍化プロジェクト

目標額 690,000 円

特定非営利活動法人 おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ

<http://blog.canpan.info/families/>



「いじめで我が子を亡くす」。

その壮絶な体験をした遺族たちが、「子どもたちを被害者にも加害者にもしないために」地域の学校を訪れ、生徒たちに語りかけています。どんなお説教よりも深く、子どもたちの心に届く話。

昨年は 17,000 人の子どもたちがその体験に耳を傾けました。

でも、この話を届けきれていない子どもたちが、親や先生たちが、まだまだたくさんいます。



## ■プロジェクトの背景

「おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ」は犯罪被害者の自助グループとして犯罪被害者への個別支援の他、被害者の声を広く伝えるため、犯罪被害者遺族が講師となり、講座やシンポジウムの開催や、小中高等学校・大学等へ出向いての「命の授業」などの活動を行っています。

被害者や遺族は「事件後の長い人生を、悲しみを背負いながらどのように生きていくのか」という誠実な課題と隣り合わせにあります。このような現状を解決するために、地域の中で同じ体験をした被害者同志が自由に集まり、感情を吐き出し、共に生きるための場が何よりも必要です。その役割を、おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズは担っています。

「命の授業」は未来のある子どもたちに対し、命の大切さを伝える重要な機会となっています。この被害者遺族自身による語りという方法が、将来的な犯罪予防につながるであろうことは、子どもたちが書いた感想文などから実感できるものです。

特定非営利活動法人 おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ

■活動内容：被害者等に対する電話相談事業、被害者に対する付添など

■代表者：川崎 政宏

■設立年月日：2005年2月13日

## ■みなさまからの支援で実現したいこと

「命の授業」は、一回の講演に参加できる人数や、体験を語ることでできる遺族の人数が限られています。また、多くの場合は学校で講演を行うため、子どもは話を聞くことができても、その両親にまで聞いていただくことは難しい状況です。子どもたちを被害者にも加害者にもしないためにも、書籍の形にして発行するプロジェクト（出版で社会を変えるプロジェクト）を応援してください。

本にすることで、誰もが街中で目にしやすく、手に取りやすくなります。そして、より多くの人達に「命の授業」を届けることができます。

実際に、命の授業で講師をつとめる遺族も、他県の被害者遺族が出版した本を書店で手に取り、支援団体の存在を知りました。いじめをなくすだけでなく、一人で悩む被害者に同じ想いを共有できる場があることを伝えるためにも、この「出版で社会を変える」プロジェクトへの挑戦を応援してください。

# Q&A

## 事業指定寄附に関するQ & A

### 1. 事業指定寄付とは？

---

事業実現を応援するための資金提供になります。融資や投資ではありませんので、金銭的な見返りはありませんが、応援する事業によっては、事業成果物などを提供させていただきます。  
また、事業の所有権は提案者にあります。資金提案者は事業実施の応援者となります。

### 2. 寄付するには、どうしたらいいですか？

---

現金、郵便振替、銀行振込、クレジット決済により行っていただくことができます。

当法人で提携した motion gallery（モーションギャラリー）のサイトよりクレジット決済及び銀行振込で行っていただけます。また当法人の事務所やイベント会場にて現金での受付を行っておりますし、郵便振替をご希望の方は、事務局までお問合せください。（通信欄への記載事項及び口座をお知らせいたします。）

### 3. 領収書の発行はどうなりますか？

---

現金及び郵便振替でご寄付いただいた場合は、現金受取時もしくは口座確認後に当法人より領収書を発行させていただきます。motion gallery（モーションギャラリー）のサイトより手続きいただいた場合は、原則として領収書の発行は致しませんので、振込記録やクレジット決済の記録を保管ください。  
（必要な場合は、事務局までご相談ください。）

### 4. 目標金額に達さなかった場合はどうなりますか？

---

集まった金額で助成（資金提供）を行います。（当法人の運営経費5%+システム利用料を差し引いた額）提案事業の目的に沿ったものを、事業規模の縮小もしくは他の資金を充当することにより実施できるものを今回は選定しております。

### 5. 逆に、期間内に目標金額を超えたらどうなりますか？

---

今回（第1期）の募集は、目標金額が集まり次第、終了となります。ただし、目標金額を達成した（超えた）瞬間にすぐに募集終了となるわけではありません。超えた時点で facebook ページなどで募集締切日をお知らせします。目標額を超えて集まった金額も含め、助成し、提案事業の発展に活用させていただきます。

### 6. 目標金額はどのようにして決まっていますか？

---

事業提案者の申請額に、当法人の運営手数料（助成額の5%+システム利用時はシステム利用料）を加えたものになっています。

※その他、ご不明な点がございましたら下記の事務局までお問い合わせください。

TEL **086-206-2195**

FAX 086-206-2196

E-mail info@mintuku.jp